

高浜町長選挙は4月14日(火)告示、19日(日)投開票。

一瀬明宏氏(62)が昨年11月に再出馬を表明。翌12月、現職の野瀬豊氏(59)が4選出馬を表明した。将来の高浜を担う若きチャレンジャーの出馬は無く、前回と同じ顔合わせ。前回の選挙で野瀬氏は4074票(63%)、一瀬氏2287票(36%)で野瀬氏が圧勝、力の差を見せつけた。森山元助役、吉田開発、関電役員の金品授受問題が露呈し、高浜町が大きな衝撃を受けた大騒動から約半年。今回の選挙は、野瀬氏が無難にこゝれら問題をこなしした評価がどれだけ票に表れるかが焦点。対抗馬の一瀬氏は町長としての裁量不足甚だしいが、両者とも正念場の選挙となる。町民の審判は如何に――。

現職対元県議

二度目の対決！

野瀬氏は平成20年に高浜町長に就任して以来、3期12年の経験と実績が今回の選挙で評価される。1期目は「高浜白宣言」を起点として新たな「高浜町総合計画」を策定し、コンパクトシティー戦略を含む5つの政策分野の実現に取り組んだ。さらに2期目には総合計画を形にするための前期実施計画を着実に進めると

共に、福島第一発電所の事故により混乱を深めていった原子力課題にも政府等に高浜町の主張をしっかりと伝え、特に防災対策に必要な事業の予算も国から引き出してきた。そして新庁舎公民館建設や中央体育館改築工事など一定の基盤整備に目途がたった3期目は、『高浜町に住まう』その魅力度・向上宣言！を公約に掲げ、将来を担う高浜町民のUターンやIターンを増やす人口減対策に力を入れ、30万円以上の結婚祝金、0歳〜2歳ま

で月額5千円の「子宝手当」の給付、子ども医療費無償化の18歳まで延長、さらには奨学金返還サポート事業(最大200万円)等を創設。また美しい海岸景観を活かし国際環境認証ブルーフラッグをアジアで初めて取得し、来年には「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の競技開催地の誘致にも繋げ、産業面では大規模施設園芸の複数展開、漁港や城山公園の再整備も進め、賑わいを創出するなど産業支援にも注力する。